

インドネシア・西カリマンタン宣教 ニュース・レター



発行：日本福音教会（JEC）インドネシアミッション

〒662-0896 西宮市上ヶ原六番町 2-42 西宮福音教会内 ☎ 0798-51-5100
郵便口座 00970 - 3 - 313875 「インドネシアミッション」

ホームページ：<http://www.geocities.jp/indonesiaasrama/>

インドネシア宣教は継続中

アンテオケ宣教会宣教師 高橋 めぐみ

クリスマスおめでとうございます。このクリスマスの時、イエス・キリストが私達のために生まれてくださったという事実が全く知らない人に、少しでも伝えられていますように！

今年もインドネシア・西カリマンタン宣教の働きを祈り支えてくださり、ありがとうございました。このインドネシア・ニュースレターは次号より少しデザインを変える予定にしております。新しく編集に加わってくださる方を募って、ちがった世代の新しい視点、アイデアなどを加えてより読者に分かりやすい内容にしていきたいと願っています。そしてそれに伴いまして、今まで大田宣教師時代より長い間ニュースの編集を担ってくださった、支える会委員長で私の母教会の山本長老が、次回 72 号からニュースレター作成の奉仕を次の方にバトンパスされることになりました。この紙面をお借りして、本当に長い間のご奉仕に心から感謝いたします。私から待てど暮らせどなかなか送られてこないニュース原稿を首を長〜くして待つも、怒ることなく気遣いをもって催促し、さらに忍耐して待ってくださいました。印刷ができあがったら封



メリークリスマス！寮生スサンの手作り籠を持って。

筒に入れて宛名を貼って、その大量の封筒を郵便局まで持って行って発送という大変な作業を 20 年以上も続けてくださいました。もし山本長老がおられなかったら、私のこののんびりでアバウトな性格ではつついニュースの原稿が後回しになり、ここまで定期的にニュースレターを発行することができなかったと思います。このように宣教師の働きは見えないところで労してくださる方々によって多くの部分を補われているのだと実感しています。これからもこのインドネシアミッションが違った賜物の人たちが合わされて、より太い働きになっていくことを願っています。

エンティコン・グロリア寮 I

先日、嬉しいニュースを受け取りました。10 年ぐらい前のグロリア寮出身のマレナ

が10月末に GPIB 教団の牧師として按手を受けたのです。彼女はスルートウンバン村の一つ手前の村、スルーンカド村出身で、中学生時代をグロリア寮で過ごし、その後ポンティアナックの韓国人ドイエ宣教師の家で働きながら高校に通っていました。彼女はこれからジャワ島のスマランという所で奉仕するということでした。寮出身者の良い消息を聞くのは本当に嬉しいものです。



牧師の按手を受けるマレナ

新グロリア寮の工事の方は今年も続きました。建物をぐるりと回る排水溝、そして乾期の水の確保のためのタンク設置や大きな地下貯水槽も2つ目を設置しました。今年の8月～9月の乾期は非常に厳しく、60名近くの寮生達は水不足に苦しめられました。そういう中で井戸が見つかったことと大きな貯水槽は今後大きな助けになります。寮の前の斜面の地崩れ対策については、最終的には斜面を段々に造成して、土砂流出防止ネットを施工してその後芝を植えることになりました。このネットはインドネシアに無いため日本から輸出しました。このニュースレターが発行される頃には現地で施工されている予定です。今回もこのために東聖士先生とネット業者の方が現地に行ってくださいます。途中いろいろ

トラブルもあるのですが、なんとか予定通り施工が進むように願っています。



グロリア寮Ⅰの地下貯水槽

それから、実はグロリア寮で最近大きな問題が起こって祈られています。事実関係がまだはっきりしていないので、このニュースに詳しく書くことはできないのですが、主が知恵を与えてくださり、最善の解決に導いてくださるようお祈りください。

スルートウンバン・グロリア寮Ⅱ

隣が中学校のグロリア寮Ⅱは今改修の必要があり、できるところから始めようとしています。正直「また建物の工事！」と疲れも覚えますが、入寮する子供達が増えて、4人部屋に今は8人の子供が入っているような状態です。現在61名で寮がなければ奥地の村出身の彼らは中学校で勉強する事ができません。それで、まずトイレの数を増やし、部屋数も増やそうとしています。またこのグロリア寮Ⅱが建てられた当時は村への道がまだなく、建材の運搬もなかなか困難であった為に、床や壁にも要補修箇所が出てきています。ただ感謝な事にグロリア寮Ⅰ、そしてこのグロリア寮Ⅱに建築士のヤシンさん(プニティ教会員)が重荷をもって関わってくださっています。現地

で建築のことを任すことができる「人」を神様が備えてくださって本当に感謝です。

グロリア寮IIのスサンからの手紙



今年5月にグロリア寮IIを訪れた際にバダットラマ村出身のスサンから手紙と手作りの籠をもらいました。手紙の内容はこうです。「・・・(中略) イブ・メグミ、これは私が作りましたが気に入ってもらえればうれしいです。私達にこのグロリア寮という場所と指導してもらえる機会を与えてくださってありがとうございます。私はここで神様を知る事ができました。もっといいものをあげられたらいいのですが、でもこの籠を感謝のしるしとしてプレゼントします。・・・(中略) ここを訪れてくれてありがとうございます。私は箴言 1:7 のみ言葉が私の人生を祝福すると信じています。スサンより」嬉しいですね！

インドネシア・ミッショントリップ (12月26日～1月4日)

この年末年始、エンティコンとスルートウンバワン村のグロリア寮I、IIに10名でミッショントリップをします。高校生、大学生、そして社会人、6教会からのメンバーで、国分福音教会の富浦信幸師がリーダーとなってくださいます。12月29日にはエンティコンでクリスマス集会(カ

リマントンでは1月半ばぐらいまでクリスマス集会があります)、翌日日曜礼拝の後、スルートウンバワン村に移動し年越しキャンプファイヤー、それから寮生出身村を訪問する事になっています。メンバーは証し、特別賛美、踊りなどを今準備中です。現地の中高生たちと良い交わりができるように、このトリップが本当に祝福されるように祈っています。これから若い世代がどんどん世界宣教に関わっていくように願わされていて、来年もできればこのようなトリップを、今度は沿岸部族の訪問を計画できればと考えています。

ブンカヤン・ベラカ寮

前号でも書きましたが、献身の思いがありATI神学校入学を希望している寮生のムンキンは、その後決断してプロテスタントに改宗し、ベラカ寮のすぐそばの教会で洗礼を受ける事ができました。来年高校卒業となりますが、彼女が神様からの召命をしっかりと握って前進できるように願っています。どうぞお祈りください。



ベラカ寮の寮生たち

舎監のギデオン師の家ですが、ほぼ出来上がってきて、中に住む事も可能だそうです。今まで住んでいた家は雨漏りで天井も

落ちてきて、いよいよ限界です。ギデオン師の家の事も神様がここまで導いてくださって本当に感謝ですが、ただ、家は思ったよりも大きくなってしまっていて、完成させるのに彼は苦勞しているようです。



ギデオン師の建築中の家

ATI 神学校

10月の初めに、元宣教師の安海靖郎先生が3日間ほどATI神学校を訪問してくださいました。その背景には、最近ATI神学校のスタッフ達の靈性に少し危惧するものがありました。10年間、ATI神学校の校長は本部との兼任で、キャンパスに常駐してこなかった影響はやはり大きいです。



ATI 神学校の学生とスタッフ(ジャワ族の)

5月に私が訪問した時に、神学校のスタッフからリトリートの必要を訴えられました。そしてATI神学校の設立初期から

深く関わってこられた安海先生がその声に心を留めてくださり、カリマンタンまで来てくださることになったのでした。

スタッフ達との交わり会は、宣教師館で食事をしながら持たれました。安海先生はATI神学校の使命を語ってくださり、そして世界に役立つ主のしもべを送り出す学校として、さらに用いられるように祈ってくださいました。その集会に主の御臨在が感じられ、また涙を拭っているスタッフもいたそうです。宣教師が宣教地をいつまでも愛し、フォローしていく大切な役割を私はもう一度教えられました。



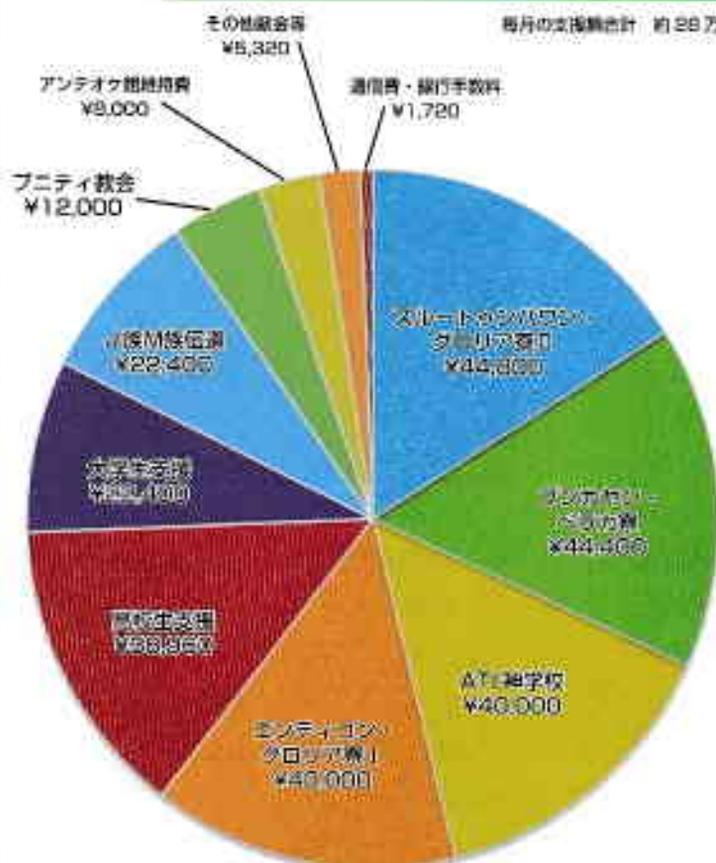
神学校断食祈禱会

沿岸部族への働き

2年前からスタートしたT村での家の教会ですが、最近Pさん家族が救われ、2家族となりました。毎週末ATI神学校から神学生が派遣され礼拝と教会学校を行なっています。このクリスマスにもクリスマス伝道集会を計画しています。T村の人達がさらに救われていくようにお祈りください。

毎月の現地支援金額内訳

毎月の支援額合計 約28万円



スルートのンバワン・グロリア教会II



会監ヘルマラス家族



会監 フェルナンド

ブンカヤン・ベラカ寮



ジュマディ/ギデオン姉家族

フニティ・アナスタシス教会



伝道師マライ



フレンキー牧師家族

エンティコン・グロリア教会I



会監デルフィ家族



1年の伝道実習生ユナス(右)と姉騎士マリンさん(左)

J族M族への伝道



ATi 神学校卒業式



ATi スタッフ写真



注：クリスチャンパートナーズよりの支援、および教会等よりの奨学生指定献金は含まれていません。

皆様のあたたかいご支援に感謝致します

「インドネシアを訪問して」

千代田福音教会 山中 敬子

8月22日はM族の宗教の犠牲祭だったのでATI神学校のチームとA地域の訪問に行きました。どこの家でもケーキやクッキーそれにシロップを薄めた赤や緑の甘いジュースがでてきました。次の週には1泊2日の予定でC地域を訪問しました。

この地で働くD兄夫妻を励ますのも訪問の目的の一つでした。孫の脳腫瘍のため、娘の心臓病のため、赤ちゃんが与えられるように、膝痛の癒やしのため、等彼らの祈りの課題は尽きません。M族の人達はなぜか外国人が大好きで日本人が訪問する事をとても喜んでくれます。話を聞きつつ必要に応じてチームのリーダーがすかさずみ言葉を語ります。家で礼拝できるところでは一緒に礼拝します。訪問をする事により、M族との関係も近くなっていきます。やっぱり人は誰かに覚えてもらっている事はとても嬉しい、訪問はイエス様の愛を表す一つの手段です。

しかも、C地域まで片道車で5・6時間、経済的にも日本のサポートがなければ彼らだけで行くのは難しいです。そして何より多くの背後の祈りあり、事故もなく無事に訪問を終える事ができました。祈りは本当に力です。日本側とインドネシア側が共に祈り会いながらこのプロジェクトを進めていけたらと思います。

『裁縫の基礎を学ぶ』時も持ちました。足踏みミシンを利用してティッシュケースカバーを制作し、現在アンテオケ館を管理してくれている神学校のスタッフのマリアンティ姉に、簡単でおいしいパン作り、バナナケーキやシフォンケーキ作り、オー

トミールクッキーなど材料費があまりかからなく比較的簡単に作れるものを一緒に作りました。また、彼女は編み物にも挑戦しました。



「裁縫の基礎を学ぶ」でティッシュケース作り

今回の訪問の目的のひとつに、大学生や寮、神学校の自立につながる道の模索がありました。その課題をマリアンティ姉にも担ってもらい、彼女が学生や寮の舎監、子ども達を指導してくれれば良いなという思いがあります。彼女はそれをしっかり受け止め、忙しい中よく学んでくれました。「私に、与えられている賜物を用いて主のために働きたい」これは私がずっと祈り願ってきたことです。これから料理や裁縫・編み物の分野でも何かできないかと考えています。寮や大学生やATIが自立していく事ができるプロジェクトにつながって行けばと夢が広がります。自立する事から、働き人や牧師、宣教師を支えていく事ができ「受けるより与える方が幸いです。」を喜んで実践していくクリスチャンが多くなればと願い、その為に私にできることは何だろうかと主に祈り求めています。

祈りの課題

ATI神学校

- ◎神学校のリーダーの祝福の為に（10月予定だった人事異動は延期されています）
- ◎神学生たち（約120名）の祝福のために。スタッフ（約25名）の霊性のために。
- ◎神学校を支援する現地教会が増やされるように。

中高生寮

- ◎エンティコン・グロリア寮I前の斜面の土砂流出防止ネットの施工がスムーズに進むように。
- ◎スルートゥンバワン・グロリア寮IIの改修工事を主が助け導いてくださるように。
- ◎教師、看護師、牧師を目指している寮の卒業生たちの必要が満たされるように。

プニティ・アナスタシス教会

- ◎教会に来ている華人中高生たちの家族が救われるように。
- ◎教会の回りに塀を作る計画があります。必要が満たされるように。
- ◎フレンキー牧師の祝福のために。

沿岸部族への伝道

- ◎名前を挙げて祈っている人達の救いのために。何度もコンタクトを取っている人達が救われるように。
- ◎毎週伝道に行く神学生カレブチームに聖霊の導きと守りがあるように。
- ◎このために献身している働き人たちの日々の必要が満たされるように。
- ◎家の教会としてスタートしたJ家族、G家族の祝福のために。

インドネシアの平和と安全のために

- ◎インドネシアの国がテロ活動から守られるように。
- ◎地震と津波に遭ったスラウェシ島中部の復興のために。ATI神学校1年実習生2名がパルの避難所でボランティア奉仕をしています。



インドネシアミッション

- ◎2月26日から1月4日までのミッショントリップ（10名）の守りと祝福のために。
- ◎チームワークを組んでインドネシア宣教を前進していけるように。
- ◎インドネシアの宣教の証しが各教会の祝福となるように。
- ◎カリマンタン宣教支援が継続されていくように。
- ◎現地での働きを継続してくださる宣教師が起こされるように。

